

中高生とともに差別と闘う 『十代学びの瞬間（とき）』

吉成タダシ（うずしおプランチ代表）



十代学びの瞬間（とき）
前号で中学生集会のまとめを終えるつもりだったのですが、どうしても紹介したい感想があるので紹介させてください。中学生集会を卒業して一〇年以上が経ち、今は広島で働いているマオです。

えていました。私の肌感でしか捉えられないで間違っていたらすみません。「世間話」「井戸端会議」などという言葉があります。特にアルバイトの方とお話ししていると、何でそんなことまで知ってるの?!ってことを知つてたりします。「あそここの家族、なんか感じ悪い」「あそこの家とは、関わらない方がいいらしい」

そんな言葉の裏に隠れてしまっているのが、部落差別ではないかと私は思うのです。なぜ、その地域出身の人と関わらない方がいいと言われているのか、その歴史を、誤解を知ろうとしないのです。その話題を出すことはいけないことだと、深く考えようとしないのだと思うんです。

何十年も生きてきた人の考え方を変えるのは難しいです。違うといつても軽く流されて終わりです。だからこそ、学生の皆さんが出た部落問題について考へることつて、とても大切で、将来的自分を守るために必要だと思います。

私も今回、この集会に参加することをパートナーに伝えた時、ほんやりと「人権の集会だよ」と言うことしかできませんでした。学生の頃はあんなに自信を持つて人権集会へ行つていたのに、そんな自分にショックでした。この機会に、ニュースの出来事を交えて話してみようと思います。

語りたい欲が溢れすぎて自信満々に手を挙げる子、勇気を出して少し弱々しく手を挙げる子、みんなが発言しやすいように無言の

問を繋いでくれる子、手を挙げる
か悩んでいる近くの子を励ます子、
マイクを持つ人へ熱く、真剣に、
時に見守るように見つめる子…。
いろんな学生さんがいました。そ
の子たち全員がとても格好良かっ
たです。語り合うパワーツてすご
かつたんだって思い出しました。
今年の健康診断の血液検査の結
果が良かったら、献血にも行こう
とも思いました。将来欲しいと思
っている子どものことも考えまし
た。祖父母・親・弟のこと、パー
トナーのことも考えました。
最後に、皆さんへのメッセージ
で終わりにします。

自分の将来を考えろ、社会人として当たり前を受け止めろ、と言わざるを得ない時期だと思います。そんな時でも中学生のために、格好いい姿を見せてくれようとする皆さんは、これまた格好良かつたです。一步引いた立ち位置で、会を作ってくれてありがとう。この先生の未来を生きていくときは、常に自分を大切に。息抜きもしてください。

〈先生方へ〉

十年以上経つても、県外へ出ても、関わりを途切れさせないでいてくれて、ありがとうございます。中学生集会を支えてくださり、ありがとうございます。今回初めましての先生もおられましたが、この先またご縁が深まっていくことを楽しみにしております。私にできることがあれば、ご協力させていただきたいので、いつでもお声がけください。

*

もつと早くにすべきことは、これでした。それに気づくまでに、どれだけ多くの大切な人材を失つてきたか。取り戻すことはできませんが、その反省として、いま人権こども塾があるのだと思っています。人権について学ぶことは、一年間では無理です。中学三年間でも無理です。人それぞれかもしれませんが、中高の十代の学びが、その後の人生において大きな意味を持つのだと思います。だからこそ私たちには、人権こども塾をするのです。それが、私たちの生き方です。

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ

T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

板中生とT中生の交流全体学習① ~平行線で手をつなぐ語り合いの部落問題学習~

板野中学校で全体学習がスタートして10年目を迎えた1999年5月29日(土)、研究指定校として同和教育に取り組んでいたT中学校の全校生徒(以下:T中生)に私が担任する板野中3年A組(以下:板中生)が招かれ、T中学校の体育館で、T中生に部落問題学習を公開し、その公開授業を受けて、板中生とT中生が語り合いの部落問題学習(以下:全体授業)を実施した。

この全体授業の冒頭におけるT中生の発言は、板中生の語り合いを否定する発言が続くが、板中生はひたむきに自分の思いや願いを伝えていく。

部落問題学習の大切さと、必要性を訴え続ける板中生と、中学生には部落問題学習は必要ないという発言を繰り返すT中生との語り合いは、平行線であったが、段々と互いの意見を受け止めていく雰囲気が生まれていき、両校の生徒の中に、段々と互いの仲間の意見を受け止めていくようとする雰囲気が芽ばえていく。それは平行線で手をつないでいく語り合いであった。

板中生にとって、このT中生との全体学習（公開授業と全体授業）は、とてもなく大きなものを残している。なかなか意見がかみ合わない平行線の語り合いを決して諦めることなく、多様な思いを伝えていった板中生とT中生の語り合いの記録のすべてを紹介したい。

まず、全体授業の冒頭でのT中生の訴えである。

T・A（T中）の語り

「こんな勉強するより良い友だちをつくって差別を吹き飛ばせばスカッとする」
板野中学校の子はすごいと思うけど、俺から言わせてもらえれば、まだ14歳や15歳にしかならない自分たちが部落問題を考えても難しいし、はっきり言って「自分に差別をしない」と思っているだけでいいんじゃないかと思います。部落問題は年をとらないとわからないと思うし、たった14歳や15歳で悟っても大した結果にならないし、答えがでるわけでもないし、自分は差別をしないと思っていたら、なくなるまでいいかのけど、差別は減っていくと思います。先生たちも14歳や15歳の時に部落問題を勉強したときは、部落問題についてわからなかつただろうし、実際今の先生の年にならなければわからなかつたと思います。14歳や15歳はこんな勉強するより、もと良い友だちをつくっていっぱい遊んで、そういう差別を吹き飛ばせるようにしてスカッとすると思います。

H・B(丁中)の語り

「わざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいいと思う」
僕はわざわざこんなに集まって部落問題を勉強しなくてもいいと思います。その理由はちょっと部落問題の勉強して、自分で差別はせんようにしたらいことだからです。

K・C（T中）の語り「差別っていうのは、僕らの時はあんまり考えんでもいいと思う」

差別っていうのは、僕らの時はあんまり考えんでもいいと思います。子どもはこういう場があるから心配ないと思うけど、大人がしっかりやっていったらいいと思います。自分以下を求める心でテストの時、勉強をやっている人と、やっていない人がいて、やっている人がやっていない人にいうのは仕方ないと思うし、僕は運動があまり得意じゃなくて、運動のことに関して言われると、何も言えんから、そういうのは自分以下を求めてるのではないと思います。

T・A（T中）の語り

「両方やらされたら、子どもは忙しくて頭を抱えて、いじめや人殺しをするようになる」
さっき言われた人がありましたけど、誰も部落問題や自分以下を求める心を勉強しなくていいというわけじゃなくて、教科の勉強とその道徳的なものを両方一生懸命頑張るということは、難しいと思うから、どちらかを優先しないといけないと思います。教科の勉強するなら勉強するで、道徳するなら道徳するで、どちらか一つにしぼった方がいいと思います。両方やらされたら、それこそ今の子どもは忙しくて頭を抱えて、いじめや人殺しをするようになると思います。大人は道徳の勉強を教えるなら、もっと教育を変えたらいいと思います。

